

入江あき子

立憲民主党
The Constitutional Democratic Party of Japan



6月定例県議会(5/27~6/21)

地球温暖化
カーボンニュートラル
気候変動

千葉県はどう立ち向かうのか？

ウクライナ危機で世界のエネルギー情勢も変し、脱炭素に向けたシナリオも不透明になってきました。しかし、地球温暖化防止は待ったなしの課題です。足元から「省エネ」の徹底と「再エネ」の加速化を進めていかなければなりません。2025年カーボンニュートラル実現に向けて、熊谷知事の対応方針を問いました。

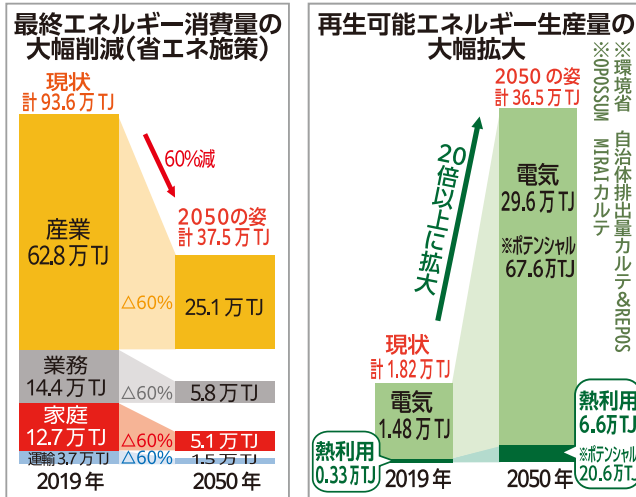


代表質問 6/2 しました

入江 環境省の自治体排出量カルテによると、千葉県の2018年度排出量は6759万トンCO₂、全国47都道府県で最多排出量となっている。独自に試算(グラフ)したところ、エネルギー消費60%削減と再生可能エネルギー20倍以上の拡大でカーボンニュートラルは理論的には達成可能。しかし、並大抵の努力では成しえない。

入江 環境省の自治体排出量カルテによると、千葉県の2018年度排出量は6759万トンCO₂、全国47都道府県で最多排出量となっている。独自に試算(グラフ)したところ、エネルギー消費60%削減と再生可能エネルギー20倍以上の拡大でカーボンニュートラルは理論的には達成可能。しかし、並大抵の努力では成しえない。

2050カーボンニュートラル実現への試算



取組みを進める。全国をリードしていけるよう取り組んでいく。

県施設の脱炭素化

入江 まずは県が率先して県有施設における環境負荷の低減に取り組むべきかどうか。

知事 県では「千葉県庁エコオフィースプラン」改定の骨子案を作成し、2030年度までに

- ①太陽光発電を設置可能な県有施設の50%に導入すること
- ②公用車を全て電動車とすること(特殊仕様の場合を除く)
- ③庁舎などの照明設備は全てLED照明とすること

入江 公共建築物への取組みは脱炭素化と共に地域の防災対策にもつながる。国の事業を活用し、新築・既存建築物に対するZEB化(ゼロエネルギービルディング)、

省CO₂改修の推進を提案する。その推進にあたっては、自治体の人的財政的な限界をカバーするため、民間活力の導入を進める必要がある。

県有施設への太陽光発電の導入をどのように進めていくのか。

知事 新築・建て替え予定の施設については太陽光発電設備を導入し、大規模改修予定の施設では、構造などを考慮して導入していく。

さらに、その他の県有施設にも早期導入に向けて、民間事業者が国庫補助を活用して太陽光発電設備を設置し、県は電気料金のみを負担していくという、いわゆる「PAMAモデル」の活用を検討していく。

入江 特に避難所となっている学校への再エネ導入は、地域の防災力強化にもつながる。積極的に進めていただきたい。

エネルギーの地産地消 新たな経済循環

入江 今年度、国は脱炭素予算として総額1.2兆円(環境省2100億円、経産省9700億円等)を確保している。新たな交付金も多数創設されており、県も積極的に利用すべきだ。

特に「脱炭素先行地域づくり事業」は、意欲的に取り組む自治体に対して複数年度にわたり支援するものだが、千葉県からの応募はゼロだった。今後、県として市町村をサポートしていくべきかどうか。



市原市内ソーラーシェアリング見学(3/30)

環境生活部長 今後の募集に向けて、現在、県内で複数の市町村が地域の特性を生かした取組を検討していると聞いている。地域の脱炭素化を推進するためには、県と市町村が連携して取り組む必要がある。今後は市町村の意向も伺いながら、しっかりサポートしていきたい。

入江 再生可能エネルギー事業に地域で取組むことは、脱炭素政策であると同時に、経済・産業政策ともなり、エネルギー確保や防災の取組み、SDGs実現にもつながる。地産地消の自然エネルギーから新たな地域の経済循環を作り出し、千葉県の未来にもつなげることが出来る。熊谷知事の強い想いとリーダーシップで「2050カーボンニュートラル」の実現を進めていただきたい。

..... 質問を終えて

今年4月、県では新たに「温暖化対策推進課」を設置し、部局の縦割りを超えて地球温暖化や気候変動に対応していくことにしました。今後、すべての施策を脱炭素の視点で進めていくことを期待します。

コロナ感染第7波 高齢者施設への医療支援を万全に

入江 基礎疾患があり重症化リスクが高い高齢者については、施設内療養にならないよう、速やかな体制づくりを力を入れてほしい。

入江 東京都では2月中旬に施設内療養した感染者の1割程度が死亡したと報じられた。千葉県の高齢者施設内療養者の数はどうだったのか。

入江 1月末時点では、感染者数は314人、うち239人(約3/4)が施設内療養だった。

入江 高齢者施設への医師・看護師の往診派遣の確保状況はどうか。



代表質問で取り上げました

台風豪雨

土砂災害に備える

令和元年10月25日の大雨では、県内で156件の土砂災害が発生し、がけ崩れにより4人が亡くなりました。この時点で千葉県の土砂災害警戒区域等の指定率は約36%（全国平均88%）と全国最下位、死亡事故が発生した3箇所の現場はいずれも区域指定されていませんでした。



6/19 酒々井町での土砂災害避難訓練

その後、県は市町村との連携で区域指定を行い、昨年5月末に11,006箇所全ての区域指定を完了させました。

入江 土砂災害警戒区域等の指定について、現在の取組状況はどうか。

副知事 県では、国が改定した基本指針に基づき、新たに10,744の危険箇所を基礎調査予定箇所に選定。令和7年度末までに全ての区域指定の完了をめざす。今年度は現地調査を進めるため、10億円の事業費を計上し、土砂災害から県民の命を守る取組を進めていく。

お住まいの情報は「地域防災web」からご覧になれます



↑国立研究開発法人 防災科学技術研究所 「地域防災 Web」



↑千葉県 「土砂災害警戒区域等の一覧」

政策提案で前進! 金属スクラップヤード対策 条例化へ

県の調査により、いわゆる金属スクラップヤード（再生資源物の屋外保管施設）が県内に332事業場、そのうち約3割で騒音・振動、油汚染、スクラップの飛散・流出、火災など周辺への影響が確認されました。

会派では県に適正管理を促す条例制定を求めてきましたが、今議会で「規制や指導内容を検討し、多角的に条例の検討を進める」との答弁を得ました。

代表質問項目

- | | |
|------------------------------------|--------------------|
| 1 知事の政治姿勢について
(カーボンニュートラル/海の文化) | 12 印旛沼流域水循環健全化計画 |
| 2 新型コロナウイルス感染症対策 | 13 流域治水における田んぼダム推進 |
| 3 土砂災害対策 | 14 所有者不明土地法 |
| 4 男女共同参画 | 15 教員の採用 |
| 5 不妊治療・プレコンセプションケア | 16 高齢者の運転免許更新 |
| 6 君津環境整備センター産廃最終処分場 | |
| 7 金属スクラップヤード対策 | |
| 8 外来生物法の一部改正 | |
| 9 中小企業の労働環境の整備 | |
| 10 有機農業の推進/オーガニック給食 | |
| 11 森林環境譲与税の活用促進 | |

→答弁要旨と質問原稿はホームページから右のQRコードからご覧になれます。



政策提案で前進! 有機農業を広げる

昨年5月農水省は「みどりの食料システム戦略」を策定し、新たに「有機農業産地づくり推進事業」を創設。この事業では地域ぐるみで有機農業に取り組む市町村が生産から消費までの実施計画を策定することにより、オーガニックビレッジ宣言ができます。国はこのオーガニックビレッジを2025年までに100市町村、2030年までに約200市町村に広げていくとしています。

入江 県内には全国をリードしている有機農家やいすみ、山武、木更津市など有機の里づくりに積極的に取り組んでいる自治体もある。県は有機農業の産地づくりを進めるため、どのように取り組んでいくのか。

知事 県は有機農業者のニーズや課題の把握に取り組んでいる。今後は、有機生産者が共同で行う集出荷体制の構築や、有機農産物を活用した加工品開発等を支援することで、地域内の連携強化を進め、地域ぐるみの取組が県内に広がるよう努めていく。

佐倉市
オーガニックビレッジへの第一歩

6/16 交付決定

有機農業産地づくり推進事業

実施主体 佐倉市地域農業再生協議会
交付金額 8,976,200円
事業内容 有機農業セミナーの開催や学校給食への活用促進など

政策提案で前進! 子どもたちにオーガニック給食を!

入江 昨年の予算委員会でも有機農産物の販路拡大の一つとしてオーガニック給食について取りあげた。いすみ市では2017年秋以降、学校給食に地元産有機米を42トン、有機野菜も2トン供給している。その結果、給食の食べ残しが大きく減ったそうだ。県として学校給食への有機農産物の活用について、市町村に働きかけてほしいがどうか。

副知事 国の新たな「有機農業産地づくり推進事業」では、学校給食における有機農産物の試行的な導入も補助対象となった。県として、この事業も利用し、学校給食への有機農産物の活用を市町村に働きかけていく。

入江 学齢期の子どもにとって、給食は心と体の成長を支える大切な栄養源だ。子どもたちに豊かな食を提供するために、県が市町村におけるオーガニック給食を積極的に後押ししていただきたい。

9月県議会の予定
開会9/15(木) 閉会10/14(金)
9/22・26・27・28・29・30・10/3 一般質問
10/5・6・7・11 常任委員会

活動

6/9 降ひょう農産物被害にかかわる要望書提出

報告

4/28 不妊治療専門クリニック訪問

5/10 君津環境整備センター産廃最終処分場現地調査

6/24 佐倉市上別所産廃現場

入江あき子事務所

〒285-0846 佐倉市上志津 1621-8 (2階)
電話 /043-420-8758
fax /043-420-8759
mail/groundwater.sakura@gmail.com

詳しくはこちらをご覧ください
入江あき子サイト URL/ <https://irieakiko.jp/>

いのちと暮らし、守り抜く

プロフィール

1965年
宮城県仙台市生まれ

1988年
国際基督教大学(ICU)
教養学部社会科学科卒業

2003年4月~
佐倉市議会議員

2011年4月~
千葉県議会議員

2019年4月~現在

千葉県議会議員3期目
健康福祉常任委員会委員
議会運営委員会委員
会派「立憲民主・千葉民主の会」政調会長
立憲民主党千葉県連 副幹事長・組織委員長
連合千葉議員団会議所属
千葉県地方自治研究センター所属
千葉県議会地震・津波対策議員連盟所属
千葉県議会資源エネルギー問題懇話会所属
千葉県フリースクール等教育機会確保議員連盟所属
全国災害ボランティア議員連盟所属